

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名(英)	設計製図2 (Atelier Practice of Design and Drawing 2)		
ナンバリングコード	L20307	大分類 / 難易度 科目分野	建築学科 専門科目 / 標準レベル 建築設計製図
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 後期
必修・選択区分	必修		
授業コード	L030752	クラス名	-
担当教員名	木村 智、島岡 成治、西村 謙司、宮部 洋二、小田 健、江越 充		
履修上の注意、履修条件	「製図」、「設計製図1」および「建築計画1」を受講しておいて下さい。担当指導教員によるエスキスチェックは毎週受けることを原則とします。また、エスキスチェックを受けない者、および提出期限後の課題提出は認められないので注意して下さい。		
教科書	コンパクト建築設計資料集成 第3版(丸善) 日本建築学会編		
参考文献及び指定図書	図解 建築プレゼンのグラフィックデザイン(鹿島出版会) 坂牛卓, 平瀬有人, 中野豪雄(著) 建築設計資料集成; 29,33,74 (建築資料研究社) 建築思潮研究所編 新・建築設計資料01 地域交流・市民交流施設 (建築資料研究社) 建築思潮研究所編		
関連科目	基礎製図、設計製図1、建築計画1など。		

○授業の目的・概要等	
授業の目的	建築設計の基本的知識と基礎的能力を養成することを目的とします。課題は合計2課題あり、それぞれにおいて、建築設計を進めていく上での基本的プロセス・手法や機能的な平面計画、合理的な構造計画、明確に意図され秩序づけられた空間構成、適切な図面表現など設計の基礎的能力を習得します。また、周辺地域の特性を含む敷地の調査の仕方を学びます。
授業の概要	第1課題「大学構内のレストハウス」は、身近な当大学構内の敷地をケーススタディとして、学内に相応しい、かつ魅力ある空間の在り方を模索・提案していく課題であり、特にその創作課程において、課題主旨の読み取りや、敷地の持つ場所性(意味・特色)、周辺環境条件との関わりなど学習します。 第2課題「アークスモールビル」では、小規模で機能的に単純な建築課題の設計演習を行うことによって、設計の基礎的能力を習得するとともに、敷地周辺の街並みの観察、サーベイを通して、街づくりからみた建築の企画・設計の考え方などについても学習します。
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「演習等形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「複数クラス方式」 (3) アクティブ・ラーニング プレゼンテーション 他
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目
実務経験のある教員による授業科目	「小田健(株式会社ヴィン設計工房 所長)(建築設計コンサルタント業務)」、「建築作品の制作指導」 「宮部洋二(studio/CASAS一級建築士事務所 所長)(建築設計コンサルタント業務)」、「建築作品の制作指導」

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・ 中間確認等)	提出物 (レポート・作 品等)	無形成果 (発表・その 他)
【関心・意欲・態度】	①建築設計に対し関心を持ち、積極的に課題制作に取り組むことができる。		15点	10点
【知識・理解】	②敷地調査を行い、その特徴を理解して、課題の建築物の配置計画を適切に行うことができる。③課題の建築物の構造計画、平面計画、空間構成を適切に行うことができる。		30点	
【技能・表現・コミュニケーション】	④設計した建築作品をよく表現する模型のつくり方を習得する。 ⑤正確で適切な図面表現の仕方を習得するとともに、わかりやすく美しいプレゼンテーション能力を身につける。		30点	
【思考・判断・創造】	⑥課題に対し適切で魅力的な建築空間を提案することができる。		15点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
講評会前日に提出することが最低条件です。講評会前に各担当教員の評価とフィードバックを受けてください。また、作品の成績評価が確定した後に、学内の掲示板等で通知をしますので、自宅へ持ち帰るなど、各自で管理をしてください。定められた期限以降も製図室内に図面や模型を放置している場合は減点対象とします。内容の評価については、単位を修得するために達成すべき到達目標に対し、以下の達成水準を目安とします。 S:よく満たしている。 A:ほぼ満たしている。 B:一応満たしている。 C:一部分満たしている。 ※講評会などで優れた発表を行ったり、積極的に発言した場合は、記録して加点することがあります。 ※詳細な成績評価の理由を知りたい場合は、講評会後やオフィスアワー時に科目の担当者に問い合わせてください。

○その他
製図室は建築学科全体の共有スペースです。使用した後は身の周りを綺麗に片付けて退出してください。各講評会終了週以降に履修者全員参加による大掃除をしますので、必ず参加してください。

2020年度 授業シラバスの詳細内容

<p>○授業計画 科目名：設計製図2 (Atelier Practice of Design and Drawing 2) 授業コード:L030752 担当教員：木村 智、島岡 成治、西村 謙司、宮部 洋二、小田 健、江越 充</p>	<p>○授業計画 科目名：設計製図2 (Atelier Practice of Design and Drawing 2) 授業コード:L030752 担当教員：木村 智、島岡 成治、西村 謙司、宮部 洋二、小田 健、江越 充</p>
<p>学修内容</p>	<p>学修内容</p>
<p>1. 大学構内のレストハウス(1)－課題出題と敷地の見学・サーベイ 第1課題、「大学構内のレストハウス」について主旨説明を行います。課題出題に引き続いてグループ編成がなされ、各担当教員より、指導や評価の方法、受講の心構えなどについて個別の説明が行われます。また、各グループ単位で実際の敷地を視察し、敷地の特性や問題点などについて互いに意見交換を行います。</p>	<p>9. アーバンスモールビル(2)－調査結果と課題の整理 メモや写真による調査結果資料を基に、街の良い点や悪い点などについてグループ内で意見交換を行い、当該ビルを設計するに当たって考慮すべき課題と特性について整理します。そこから街に必要なビルの機能を各々設定します。</p>
<p>予習：大学構内のレストハウスとして参考になりそうな小建築・空間を建築雑誌・作品集等で調べる。(約2.0h) 復習：敷地を選定し調査分析する。休息以外の機能を設定し、参考となる具体的事例位の作品分析を行う。(約2.0h)</p>	<p>予習：敷地分析、アーバンスモールビルの事例分析を踏まえた上での自らの作品のコンセプトの発表準備。(約2.0h) 復習：敷地の周辺模型、アーバンスモールビルのヴォリューム模型の作製。自らの作品のコンセプトの再考。(約2.0h)</p>
<p>2. 大学構内のレストハウス(2)－敷地の選定とイメージスケッチの作成 イメージスケッチを作成します。また、あらかじめ設定された3つの敷地の中から、各々が描くイメージに最も相応しい敷地を一つ選択します。</p>	<p>10. アーバンスモールビル(3)－イメージスケッチの作成 設計条件、周辺環境、現実の敷地条件を基に、ボリュームの設定、及びファサードや室内空間のイメージスケッチ等により、建物の基本的デザインを考えます。</p>
<p>予習：敷地分析及び参考事例としての建築作品の分析を踏まえた上で、自分の作品のコンセプトの発表準備をす(約2.0h) 復習：敷地模型、建築のヴォリューム模型を作成し、イメージスケッチとコンセプトを再考する。(約2.0h)</p>	<p>予習：設計条件の整理、敷地特性の整理をふまえ、自らの作品のコンセプトとヴォリューム模型を作成。(約2.0h) 復習：自らの作品のコンセプトと設計案の再考。(約2.0h)</p>
<p>3. 大学構内のレストハウス(3)－基本設計 敷地調査による分析結果やイメージスケッチ等の情報から、選択した敷地の基本的な配置計画を検討します。また、作成した配置計画と連動して、計画するレストハウスの基本設計を行います。</p>	<p>11. アーバンスモールビル(4)－基本設計 敷地調査による分析結果やイメージスケッチ等の情報から、基本的な配置計画を検討します。また、作成した配置計画と連動して、計画するアーバンスモールビルの基本設計を行います。</p>
<p>予習：敷地の場所性、レストハウスのコンセプトの図式化に基づいた全体配置図、シエマの作成。(約2.0h) 復習：レストハウスのコンセプト、シエマの再考とシエマに基いた造形イメージの構想。(約2.0h)</p>	<p>予習：敷地特性に基づく配置計画、作品コンセプトに基づく建築工法とデザインの整合性を整理する。(約2.0h) 復習：自らの作品コンセプトに応じたデザインに適した建築の構造計画に関して再検討を行う。(約2.0h)</p>
<p>4. 大学構内のレストハウス(4)－断面・立面の検討 前回に引き続き、基本設計を行います。空間の用途や動線、家具や植栽の配置など、設計する建物の内外についての具体的な計画に加え、断面・立面の検討により、空間のイメージをさらに固めます。</p>	<p>12. アーバンスモールビル(5)－断面・立面の検討 前回に引き続き、基本設計を行います。空間の用途や動線、家具や植栽の配置など、設計する建物の内外についての具体的な計画に加え、断面・立面の検討により、空間のイメージをさらに固めます。</p>
<p>予習：レストハウスのコンセプト、シエマ、造形イメージに基づくエスキースの作成(約2.0h) 復習：造形イメージのエスキースに基づく平立断面図の再検討。(約2.0h)</p>	<p>予習：自らの作品コンセプトに基づく内部空間の構成と造形の検討。(約2.0h) 復習：建築作品の構造、内部空間、外観の再検討。(約2.0h)</p>
<p>5. 大学構内のレストハウス(5)－スタディ模型によるデザインの再検討 上記の計画図面に基づいて、簡単なスタディ模型を作成します。模型を見ながらデザイン的な最終チェックを行い、必要に応じて意匠を修正します。</p>	<p>13. アーバンスモールビル(6)－全体構成の再検討 上記の計画図面に基づいて全体構成の再検討とさらなるブラッシュアップを試み、講評会に備え、プレゼンテーションの準備を行います。</p>
<p>予習：レストハウスのコンセプト、シエマ、造形イメージに基づく平立断面図のエスキースとスタディ模型の作成。(約2.0h) 復習：授業中に指摘された計画案のエスキースの問題点の再考(約2.0h)</p>	<p>予習：敷地条件、自らの作品コンセプトに応じた建築設計の全体像のまとめを行う。(約2.0h) 復習：自らの作品コンセプトを提出図面、模型に適したものとするための問題点と解決案を検討し、解決する。(約2.0h)</p>
<p>6. 大学構内のレストハウス(6)－図面のプレゼンテーションと模型制作 最終的な図面の仕上げと詳細模型の制作を行います。図面にはできるだけスケッチの挿入や着色を施し、各自表現方法を工夫してプレゼンテーションします。</p>	<p>14. 講評会 作成したプレゼンテーション図面を用い、口頭で作品の内容を説明することによって、3次元で構成された建築空間を第三者に伝えるトレーニングを試みます。加えて、他の作品を講評する能力を習得します。</p>
<p>予習：平立断面図のエスキース、パース、模型の作成、及びプレゼンテーション図面の検討と発表準備。(約2.0h) 復習：授業中に指摘された計画案のエスキースの問題点の再考(約2.0h)</p>	<p>予習：設計案の図面、模型、パースの作成、およびそれらのプレゼンテーション図面の作成。発表準備。(約2.0h) 復習：講評会にて指摘された設計案、プレゼンテーション図面の問題点を訂正し、ポートフォリオを作成。(約2.0h)</p>
<p>7. 大学構内のレストハウス(7)－課題の提出と作品の講評会 第1課題を完成させて提出します。提出した作品は一旦展示され、さらにその中から数点選んで作品講評会を行います。</p>	<p>15. 全体講評 作成した2つの作品を反省し、改善する点を見だし、つぎのステップに進む道を探ります。</p>
<p>予習：設計案の図面、模型、パースの作成、及びそれらのプレゼンテーション図面の作成、発表準備(約2.0h) 復習：講評会にて指摘された設計案、プレゼンテーション図面の問題点を訂正し、ポートフォリオを作成。(約2.0h)</p>	<p>予習：2課題における講評会の結果を踏まえ、各自の設計案、プレゼンテーション図面の改善案の再考。(約2.0h) 復習：大学構内のレストハウスとアーバンスモールビル2作品のポートフォリオの完成。(約2.0h)</p>
<p>8. アーバンスモールビル(1)－課題出題と調査計画 第2課題、「アーバンスモールビル」について主旨説明を行います。課題出題に引き続いてグループ編成がなされ、各担当教員より、指導や評価の方法、受講の心構えなどについて個別の説明が行われます。その後さらに小グループを編成し、敷地周辺調査の計画を行うこともあります。</p>	<p>16. 期末試験 期末試験は行いませんが、履修者全員参加で製図室の大掃除をします。</p>
<p>予習：興味あるアーバンスモールビルの具体的事例を『新建築』から探し、調査すること。(約2.0h) 復習：課題設定された敷地の調査分析を行う。アーバンスモールビルの具体的事例の作品分析を行う。(約2.0h)</p>	<p>予習： 復習：</p>